

第1回 あかしあ地域内交通検討会 開催報告

1. 日時 令和2年11月21日(土) 13:30~15:30
2. 場所 あかしあ台コミュニティハウス
3. 参加者(敬称略)

【あかしあ台小学校区】一般住民：堀江、山岡、外間、北野、中村栄子、酒井和子、古川、あかしあ台自治会：足立(欠席；達家、奥田)、あかしあクラブ：畑、榎本(欠席；奥村)、民生児童委員：塩見、内布、ふれあい活動推進協議会：谷淵、あかしあ台まち協：長谷川、片岡、川元、河本、島崎、丸本(欠席：酒井、岡村)

【アドバイザー】(社)グローバル交流推進機構 田中

【三田市】交通まちづくり課 高寺、上田、北村、他1名

4. 概要

- (1) 開会 交通まちづくり課上田係長の司会で定刻通り開会。
- (2) 挨拶 あかしあ台まち協長谷川副会長より挨拶があった。開催に至った経緯、趣旨及び市の地域内交通支援プログラムを活用する旨が述べられた。
- (3) アドバイザー紹介 市の紹介で来て頂くことになった、(社)グローバル交流推進機構 田中巖氏の紹介があった。
- (4) 参加者自己紹介 参加者全員の簡単な自己紹介があった。
- (5) 講義「三田市の公共交通の現状と未来図」(講師：交通まちづくり課 高寺課長)

概要は次の通りであった。交通に関する現状と将来展望について、アンケートなどのデータをもとに述べられた。

i) 人口構造の変化

- ① 三田市では、通勤需要の減少に伴い昼間移動が増大しつつある。
- ② 三田市では、各地区とも高齢化が進んでいる。ウッドィタウンの進む速度が速い。そして、あかしあ台が最も高い。運転免許返納者は、ここ5~6年で約3倍。車を気軽に利用できない人が約4割居る。車を気軽に利用できない65歳以上の方の外出率はかなり下がる。
- ③ 一方で、公共交通に関して、バス利用者は20年後に3割下がると推定され、サービスレベルの低下が懸念されている。又、鉄道利用者についてフラワータウン・つつじが丘の最寄駅の乗降者数は減少傾向、ウッドィタウンはまだ上昇傾向。

ii) 地区の構成と課題

- ① ニュータウンの交通手段は、他地区と較べて徒歩や自転車の割合が高い。
- ② あかしあ台地区の65歳以上について特徴をピックアップすると次の通りである。
 - ・目的別お出かけ先について、行きたいけれども行けない人は、通院・買い物ではなく、愉しみで1%程度。
 - ・移動手段について、自動車を使う移動が半分程度(通院43%、買い物64%、愉しみ67%)を占める。公共交通のバス・鉄道は8~25%(通院25%、買い物8%、愉しみ14%)である。次に多いのが徒歩で10~20%を占める。自転車を使う人は意外と少なく5%程度。

なお、タクシーについては、買い物で使う人がわずかにある程度。

・移動の問題に関して、特に問題がないとする人が75~85%(通院76%、買い物87%、愉しみ76%)となっている。これに対して、目的に行くバスや鉄道がないとする人が5%程度、並びにバスや鉄道あるが利用しにくいお金がかかるとする人が7%~15%程度(通院14%、買い物7%、愉しみ15%)ある。

③ 良く利用される目的地 1位：イオン三田ウッディタウン店、2位：阪急オアシス、3位：三田市民病院、4位：イオンモール神戸北、5位：スーパーマルハチ

④ 公共交通による地区別カバー率 ウッディタウン地区：90%

⑤ 地区特性

- ・移動手段 徒歩・自転車・公共交通の利用割合が他地区に比べて高い。
- ・便利施設 地区内に店舗や病院が集積するコンパクトシティ形態。
- ・公共交通網 公共交通カバー率高いが上手く使われていないところある。
- ・良好な基盤整備 駐車場・道路など車依存型のまち形成。車運転しやすい、公共交通使わなくても困らない。

⑥ ワークショップ(2017~2018)でのウッディタウンについての意見の傾向
バスや鉄道を使えるようにするための悩みに関する意見が多かった。ルート複雑、どこに停まる、時刻表分かり難い、どこで乗換えなど。

→総合すると、便数よりも「行く先」、「ダイヤ(時間)」、「乗継性」の改善が必要と考えられる。

iii) 目指すべき将来像

地域内交通の充実(小回りの利く新たな交通で補完：循環バス、小型乗合バス、パーソナルモビリティなど)とネットワーク化(幹線と支線の整備と連携)の推進とともに、色々な交通手段の選べる街を目指したい。

(6) フィールド学習に向けての準備

班分けし、行く先について次の通り定めた。詳細は、添付別紙資料の通り。

I班：城山公園方面

II班：イオン三田ウッディタウン店方面

III班：まほろばブレッチェ方面

IV班：南ウッディタウン駅方面

(7) 本日のまとめ(アドバイザー)

バスを乗り換えていくようなところでは歩いた方が速いことがある。一方で、バス停まで行くにも歩けない足の不自由な人がいる。自分が思うバリエーションと身の回りにいる他の人が感じるバリエーションとが違う。交通のあり方を考えるに当たっては、様々な人に視点にたって考えることが大切である。そうすることによって、どうあるべきか見えてくる。是非そのような観点にたってフィールド学習を進めて欲しい。

(8) 閉会 15時30分に閉会。

以上